

## 地域包括ケアシステムの構築へ向けての動き ～住みやすい地域づくりについて～

### 地域包括ケアシステム

2025年(団塊の世代が75歳以上となる年)を目途に、**住まい**を中心として、①地域の仲間での**生活支援・介護予防**、②介護が必要になったら**介護サービス**への通所・入所、③病気となった時の**医療**が、包括的に確保される体制【**地域包括ケアシステム**】の構築を実現しようという動き。誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようにしようとするもの。

### 青梅市の場合

青梅市では現在、高齢者支援課が第1層(市町村区域)全域の概略を押さえる第1層協議体として、第2層(日常生活圏域)は市内を3つの地域に分けて、小曾木地区は第3地区内で、**青梅市地域包括支援センターすえひろ**が地域の支え合い活動を住民と一



緒に進める役割を担います。考える会の場にも、**すえひろ**の方々が参加され、考える会の活動状況をご覧になりました。

### ここまでの状況

地域包括支援センターが市民センター単位で3回の勉強会を開催して、地域での支え合い活動について考えるグループ(第2層協議体)作りを進めてい

ます。3回の勉強会を終えた後、「地域活動に関心のある方、何かやってみたいという方等」で「継続して集まる場＝協議体」の活動(まずは話し合い)を開始しています。

### 小曾木地区での開催状況

- ・1回目：11月7日(木) 13:30～ 参加者1名
- ・2回目：11月22日(金) // 参加者3名
- ・3回目：12月12日(木) // 参加者4名

市内を10地区に分けて、いずれも3回ずつの勉強会を開催し、1回あたりの平均参加者数は約19名となっています。小曾木地区の3名弱を大きく上回っており、小曾木地区が最少の参加者数です。

### 今後へ向けて

小曾木地区でも3回の勉強会を通し、青梅市の現状と課題について理解を深め、地域での活動状況や課題を出し合いながら今後の地域づくりを継続的に考えていく予定でした。現在のところ参加者も少なく、地域での支え合い活動について考えるグループ(第2層協議体)作りへの動きが取れていない状況です。今後は、開催時間帯や声掛けの方法などの工夫も必要かと思えます。私たちも「支え合いの地域づくり」に向け、地域ぐるみで考えていく必要もあると思えます。支え合いの活動が充実し、いつまでも他人のために活躍できることは、大きな生き甲斐となる面で「自分事」と捉えて楽しんでみてはいかがでしょうか。きっとご自身の健康年齢も長くなることと思えます。

## 小曾木保健福祉センター 令和2年3月末で閉館

小曾木保健福祉センター利用者説明会が1月21日に開かれました。閉鎖以降は、センター周辺が土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)であるため、安全面を考慮し、青梅市の倉庫として使用予定です。利用者からは、閉鎖までに期間が短かった点、カラオケができる場所が見つからない点、ここが二次避難所(福祉避難所)だった代替施設はどうなるか、などの意見や質問が出ていました。

市は管理する老朽施設を再編する再編整備計画を立て、維持管理費の低減に取り組んでおり、その一環での閉館となっています。



### 編集後記

この地に嫁いで、この地で四姉妹を育て、それぞれが嫁ぎ、今ではよく孫を連れて遊びに来てくれます。そして孫や婿さんから、この地の良さを再発見、教えてもらっています。黄色絨毯のタンポポのまぶしさ、幻想的なホタルの美しさ、セミの孵化の様子も身近で観察、カブトムシも卵から飼育、黒沢川の魚釣りなど、女の子しか育てたことのない私は新鮮さを体感中です。

娘たちからは、離れてみて分かる良さ、人情のあ

たたかみが懐かしいと言われます。第七小学校や第六中学校の行事報告もラインで流すと後輩たちの頑張りと一緒にエールを送ってくれます。離れて感じる良さ、新しく関わって感じる新鮮さ、そして今まさに住んで日常を送っている住民の皆さま、宝石のような活動等、考える会、第七小学校、第六中学校のホームページ、ブログなど覗いてみてください。あなたの知らないこの地の良さに出会えます。考える会は10周年を迎えます。ぜひ貴方にとっての、この地の魅力を教えて下さい。一緒にこの地を磨きましょ。 (島田福美)